令和３年度　第１回北海道Society5.0推進会議　開催概要

１　日　　時

令和３年５月２７日（木）10:00 ～ 12:00

２　実施場所

ホテル札幌ガーデンパレス　２階　丹頂

３　出 席 者

別添「出席者名簿」のとおり

４　議　　題

別添「次第」のとおり

５　議　　事

(1) 議事１　会議の進め方

・事務局（北海道）から説明（資料１－１、１－２、資料２）

(2) 議事２　「北海道Society5.0推進計画」について

・事務局（北海道）から説明（資料３）

(3) 議事３　令和３年度の取組について

・事務局（北海道）から説明（資料４）

(4) 議事４　道内における未来技術活用の取組

・川村委員、川口谷委員から事例を発表（資料５、資料６）

(5) 議事５　意見交換

・事務局（北海道）から説明（資料７）

【委員からの主な意見】

＜産業のデジタル化＞

- 道内中小企業は非接触型ビジネスが進んでいない。
- 企業のSociety5.0推進について啓蒙活動、相談窓口の拡充が必要。
- AI活用のような新しい取組は、中小企業向けの推進支援センター（農業で言うJA）のような中間支援組織を作って、経済的負担を減らす必要。
- 企業版ふるさと納税をもっと活用してはどうか。
- 道がIT企業と非IT企業のマッチングの機会作ることでAIなどに取り組む企業が増える。
- 中小企業向けに、大学や高専の教員、学生の力を活用できるよう、貢献できるかもしれない。
- デジタル化を推進していく中で、今回の取組では底上げによるアベレージのをあげ方が大切。

＜暮らしのデジタル化＞

- 介護分野はDX化が遅れており、リテラシーが低いという現状。
- Society5.0は、やはり「人」中心の社会。

＜行政のデジタル化＞

- どれだけデジタル化されているかという業務の棚卸し、庁内プロセスの見直しが必要。
- 幹部は、業務のリデザイン、人事評価を改革し、チャレンジのフォローワーシップを身につけるべき。
- 行政内部を効率化するだけではなく、市民の満足度など、両面でしっかり進めていく取組が重要。

＜データ利活用＞

- データの信頼性のマネジメントというのが大事。論点として、安心してデータが使えるプロセスをいかに作るかということも必要。
- 庁内のデジタル化を進めることがオープンデータ以前に必要。
- 庁内のデータ作成プロセスを棚卸しし、 ID を統一するなど、台帳をデジタル化するべき。
- 道内の大学が連携し、授業で使うデータ活用といった観点も、かなり議論されている。
- 酪農業界は海外メーカのロボットが入っており、データが海外に流れ有効活用できないという問題が発生。

＜デジタル人材育成＞

- 本当のデータを使いながらいろいろ実践的なことをやることこそ重要。
- IT 推進協でデジタル人材を養成のカリキュラムを作る予定。
- 企業の中の人をデジタル化（内製化）のためのプログラムを作る予定。
- 旭川高専では全学生が AI とデータサイエンスの基礎を学習し、応用レベルで、データを利活用。
- 教育を通した人材育成のカリキュラムはすでに確立しており、道のデジタル人材育成に貢献できる。
- 文科省のような、道の認定があれば、学生も意欲的に道内へ就職し、産業の活性化に結びつく可能性。
- 10 年後社会に出る今の中学生ぐらいから、IT 人材を作る仕掛けが必要。
- 現場の中学校、高校の先生方をどう支援するかが重要。
- 職場体験など、小さい頃からどういった仕事をするんだということを教育していく必要。

＜ワーキンググループについて＞

- 「データ利活用」「デジタル人材育成・確保」ワーキンググループの設置に関しては全会一致で了承。
- 10 年後に現役で頑張れるような人たちを取り込んで、その人たちのための社会を作るような取組になっていけばいい。

＜北海道 Society5.0 全体に関すること＞

- 計画の実行に向けた方針をみんなで共有、共感し、その目標に向かってバックキャスティング的な手法で進めていくしかない。
- 目の前の課題を解決しながら、少し先のこんな生活がいいよねといったことを産学官で連

携してしっかり取り組むことが大事。

- 現実社会と IT をはじめとした技術とのマッチングが今とれていない段階。重要なのはリテラシー。
- スピード感、これがすべて。5 年かけてやると行っているのはクロックスピードが遅すぎる。
- 完璧に 100%を求めるのではなく、使えるところから使っていく、駄目なところは駄目で良い。アジャイルというのはそういうこと。

(6) 議事６　今後の進め方

・事務局（北海道）から説明（資料８）